

授業科目名 <英訳>		社会疫学 II Socio-epidemiology II		担当者所属・ 職名・氏名		医学研究科 准教授 木原 雅子					
配当 学年	専門職	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語

[授業の概要・目的]

●コースの概要

社会疫学socio-epidemiologyとは、量的方法と質的方法、疫学と社会科学を統合的に用いて、現実社会で可能な予防方法の開発を目指す学際的で実践的の学問分野である。

社会疫学I（前期）では社会疫学の方法論的背景や社会疫学のフレームを形作る基本的方法（ソーシャルマーケティング、行動科学、社会的サンプリング・実験デザイン）を扱う。

社会疫学II（後期）では、量的方法と質的方法の統合的パラダイムの重要性を前提に量的方法（質問紙法）と質的方法（面接法と分析法）の実践的教育を行なう。

●教育・学習方法

講義、小グループ形式による演習

[到達目標]

●学習到達目標（このコース終了時までに習得が期待できること）

- 1.量的方法と質的方法の統合の必要性を理解する。
- 2.質的研究方法の利点と限界を理解する。
- 3.フォーカスグループの理論・方法を理解し、実践できるようになる。
- 4.質的データの分析方法を理解し、実践できるようになる。
- 5.グランデッドセオリーを理解する。

[授業計画と内容]

- 第1回 10月05日イントロダクション
 第2回 10月19日量的方法（1）：質問調査の技法：パート1
 第3回 10月26日量的方法（1）：質問調査の技法：パート2
 第4回 11月02日面接方法概論
 第5回 11月09日フォーカスグループ演習（1）
 第6回 11月30日フォーカスグループ演習（2）
 第7回 12月07日フォーカスグループ演習（3）
 第8回 12月14日質的データ分析概論
 第9回 12月21日グランデッドセオリー概論
 第10回 01月18日質的分析演習（1）
 第11回 01月25日質的分析演習（2）
 第12回未定 質的分析演習（3）（発表）
 第13回未定 質問票作成演習（1）（発表）
 第14回未定 質問票作成演習（2）（発表）
 第15回未定 総合討議
 試験未定

*注意；講義内容は、当該年度の学生の要望や進捗状況により変更になる場合があります。

社会疫学 II(2)へ続く ↓↓↓

社会疫学 II(2)

[履修要件]

MPH選択
MCR推奨選択
GC推奨選択

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（出席を含む）（30%）、レポート（40%）、試験（30%）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

推奨テキスト：参考書（より深く勉強したい人のためのテキスト）

- 1.リアンプトンP（木原雅子、木原正博訳）. 現代の医学的研究方法—質的・量的方法、ミックスドメソッド、EBM/EBP. メディカルサイエンスインターナショナル、印刷中、（原著：Liamputtong P et al. Research in Medical Research-Foundations in evidence-based practice. Oxford University Press. 2010）
- 2.ライス PL, エジィD(木原雅子、木原正博監訳). ヘルスリサーチのための質的研究方法. 三煌社、2006年（原著：Rice PL & Ezzy D. Qualitative research methods-a health focus. Oxford Univ. Press, 1999）
- 3.木下康仁. グランデッド・セオリー・アプローチの実践. 弘文堂、2003年

[授業外学習（予習・復習）等]

特になし

(その他（オフィスアワー等）)

その他メッセージ

・将来、疾病の予防、健康指導に関わる可能性のある人、予防や健康指導に興味の深い人の受講が望ましい。

人間健康科学系専攻学生の受講可否：受講可

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。